

# ベオグラード大学における多読時間の取り組み

岡田さやか・高橋亘（ベオグラード大学）

wataru.takahashi@hotmail.co.jp

## 1. はじめに

本稿では、ベオグラード大学文学部東洋学科日本語・日本文学専攻課程（以下、「本学」とする）で実施している多読時間の取り組みの現状と今後の課題について報告する。

### 1-1. 多読とは

NPO 法人日本語多読研究会によると、多読とは「やさしい日本語から始めて、わからない言葉は飛ばして、楽しみながらどんどん読み進めていく読み方」<sup>1</sup>と定義されている。そのため、同研究会は表 1 に掲げた 4 つの「多読のルール」を作成している。本学の多読時間でもこのルールを採用し、多読を行っている。

表 1 多読のルール<sup>2</sup>

|                    |
|--------------------|
| 1. やさしいレベルから読む     |
| 2. 辞書を引かないで進む      |
| 3. わからないところは飛ばして読む |
| 4. 進まなくなったら、他の本を読む |

### 1-2. 本学における多読時間の取り組み

本学では 2010 年 11 月より、日本語学習に対する動機づけや日本好きを増やすことをねらいとし、多読の時間を取り入れた。書籍は NPO 法人日本語多読研究会監修『レベル別日本語多読ライブラリーにほんごよむよむ文庫』シリーズ<sup>3</sup>（以下、『よむよむ文庫』とする）をはじめ、参加者達が興味を持ちそうなファッション雑誌やスポーツ雑誌、マンガ、計 20 冊ほどを毎回教師が選び、参加者が好きな本を手にとれるようにした。本格的な多読時間の実施の前に、授業外の時間に 4 回、試行的に多読時間を取り入れた。参加者たちの反応が非常に良かったため、その後同年 12 月より、大学近辺の図書館を一室借り、定期的な多読時間を開始した。多読の時間は週 1 回 1 時間半で、学生たちの授業がない時間を選んだ。教師は時間中、参加者へ多読に関するアドバイスをしたり、感想を聞いて回ったりしている。書籍内に意味がわからない箇所を参加者が質問して来た場合は、前述の多読のルールに基づき、なるべく絵や写真を見て推測するか、その箇所は飛ばして読むように指導している。参加者数は、テスト期間や長期休暇等、時期により異なるがおおむね 10～15 名ほどである。

<sup>1</sup> NPO 法人日本語多読研究会 HP <http://www.nihongo-yomu.jp/ja/teachers/t-about.html> より抜粋

<sup>2</sup> NPO 法人日本語多読研究会 HP <http://www.nihongo-yomu.jp/> より抜粋

<sup>3</sup> 2011 年 11 月現在、同シリーズではレベル 0（入門レベル）からレベル 4（中級レベル）までの 13 シリーズ（全 67 冊）が出版されている。

## 2. 多読の効果

本章では、多読の効果として期待されるもの、及び多読の効果として現れているものについて述べる。図 1 に示したように、次の 5 つが効果として考えられる。なお、多読の効果として、読解力の向上も考えられるが、読解力の向上は長期的な取り組みとしては視野に入れていきたいが、本稿では割愛する。これは、本学では、前述のとおり日本語学習に対する動機づけや日本好きを増やすことを多読のねらいとしているためである。

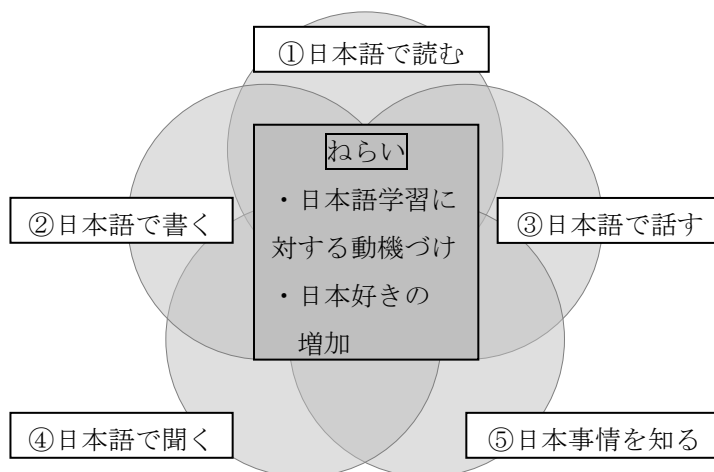


図 1 多読の効果

### 2-1. 日本語で読む

まず、多読という文字通り、日本語で読む練習ができる点である。『よむよむ文庫』は、入門期から読める平易なものから、中級レベルの本まで揃っているため、ひらがなを勉強し終えた段階から読むことができる。また雑誌やパンフレットからは、授業では扱うことができない語彙や表現のような生の日本を学ぶ良い機会になっている。

また、学生が原書で日本の文学作品に触れようとしない、という課題を踏まえ、この多読の取り組みをセルビア語ではなく日本語で文学作品の原書を読む準備段階としても位置づけている。

### 2-2. 日本語で書く

本学では、課題や学習進度把握のため、ポートフォリオ<sup>4</sup>を作成している。本取り組みにおいても、[淵上・和田 \(2009\)](#) を参考にし、ポートフォリオ(「多読ノート」)を作成し、参加者に読んだ本を記録させている。この「多読ノート」は、日付、本の題名、感想の 3 つから成り、どの本を読んだのかを視覚化させ、日本語で感想を書かせるというねらいを持つ。図 2 に挙げた「多読ノート」は、日本語学習の開始後 5 ヶ月目に多読時間に参加し始めた学習者のものであり、参加当初は入門レベルの平易な本を読んでいるが、時間が経過するとともに、当初よりは難易度の高い本や雑誌を読み始めている傾向にある。

<sup>4</sup> 淵上・和田 (2009) による

| 日にち            | 本の名前                   | 感想              | 日にち            | 本の名前         | 感想              |
|----------------|------------------------|-----------------|----------------|--------------|-----------------|
| 2月7日<br>2011年  | 西町文番の良さ<br>「たすけてよ」     | いい本です。          | 7月4日<br>2011年  | コーナート<br>ブック | とてもいい。          |
| 2月7日<br>2011年  | 「一良」学木文で<br>木村家の毎日     | おもしろいです。        | 7月11日<br>2011年 | やさしいかん字      | とてもおもしろい<br>です。 |
| 2月7日<br>2011年  | 風と太陽<br>インフ「生物」語より     | たのしいです。         |                |              |                 |
| 2月24日<br>2011年 | 西町文番の良さ<br>「いかにいかに」    | ナイス。            |                |              |                 |
| 3月7日<br>2011年  | これは何の本？<br>「かん字」で見ると日本 | スベル。            |                |              |                 |
| 3月14日<br>2011年 | 「あまのこ」<br>木村家の毎日       | おもしろいです。        |                |              |                 |
| 3月21日<br>2011年 | ハチの言葉                  | かなしいです。         |                |              |                 |
| 3月28日<br>2011年 | 女の子                    | いいです。           |                |              |                 |
| 7月2日<br>2011年  | Diey Japanese          | とてもおもしろい<br>です。 |                |              |                 |
| 6月27日<br>2011年 | ももたろ                   | いいです。           |                |              |                 |
| 6月27日<br>2011年 | えすかた 奥さん               | たのしいです。         |                |              |                 |
| 6月27日<br>2011年 | わかい言葉                  | ナイス。            |                |              |                 |
| 7月4日<br>2011年  | 一休さん                   | おもしろい。          |                |              |                 |

図 2 多読ノート

### 2-3. 日本語で話す

本取り組みでは読んだ本のレビューや感想をそれぞれの参加者が日本語で発表する時間を定期的に設けており、日本語で話す・聞く活動を行うと同時に、参加者同士の交流の場にもなっている。1年生から4年生、大学院生までが参加している中で、下級生がうまく発話することができない時は、上級生が助けるなどし、多読に来た参加者の間には互いを助け合う協力性が芽生えた。また、多読についての話だけでなく、漢字などの日本語学習方法について話が発展することもあった。

また、教師は、参加者が本を1冊読み終わった後、どのような内容だったか、どのように感じたかを聞き、次に読む本を薦めたり、多読に関するアドバイスを言ったりしている。

### 2-4. 日本語で聞く

前節で述べた本のレビュー時間にて参加者及び教師の日本語を聞く活動の他、本の聞き読みも奨励している。これは、『よむよむ文庫』付属の朗読CDを聞きながら本の文字を追っていく読み方である。聞き読みは取り入れてからまだ日が浅いため、今後、参加者の聞き読みの様子に注目しながら、積極的に参加者に勧めていきたい。また、まだCDの朗読の速度に追いつかない入門レベルの参加者に対しては、教師による読み聞かせも行っている。

### 2-5. 日本事情を知る

『よむよむ文庫』には、桜や日本の習慣など、日本事情についての内容の本も多い。また、その他にも最新のファッション雑誌やスポーツ雑誌、旅行パンフレットやガイドブックを用意し、現在日本でどのようなことが話題になっているかについても知ることができるようにしている。これらにより、参加者が興味を持っている一方で授業内ではあまり触れることができない日本の最新事情について知る機会になっている。インターネット等で更に情報を集めることができるよう、指導も行っている。

以上の5つの効果を総合し、日本語学習に対する動機づけ、及び日本好きの増加を本学における多読のねらいとしている。

## 2-6. 多読に対する学生の評価

本取り組み開始後から定期的に、多読時間の後にコメントシートを配布し、多読時間や多読のやり方についてどのように感じているのか、参加者に自由に書いてもらった。更に、本のレビュー会の際や個別に聞き取り調査を行い、詳しく話を聞いた。

その結果、大半の参加者は多読に対し「読むことはあまりむずかしくない」、「インスピレーションが出てくる時間」といった肯定的な意見を述べている。

一方で、「勉強のためなので、知らない単語は辞書で調べたい」、「書籍が少ないのですぐ読み終わってしまう」という多読の進め方やリソースの面で否定的な意見もあった。

表 2 多読に対する意見の例

|        |   |
|--------|---|
| 肯定的な意見 | おもしろかったです。本を三さつよんで、すごかったです。(1年)                             |
|        | 読むことはあまりむずかしくない!(2年)  |
|        | このような時間は学生たちにとっても必要でした。(3年)                                 |
|        | とても自由に読めますから、しらないこと、言葉とか、漢字がしらないとかありません。本は簡単に書いてあるからです。(3年) |
|        | インスピレーションが出てくる時間。ぜひまた来たい。(4年)                               |
| 否定的な意見 | 勉強のためなので、知らない単語は辞書でしらべたいです。(2年)                             |
|        | 本が少ないので、全部読んでしまいました。もっと読みたい本があればいいと思います。(4年)                |

## 3. 多読時間開始後の問題とその対策

これまで述べてきたように、多読時間には一定の効果が見られ、今後も更なる効果が期待される。しかしながら、多読時間を開始し、円滑に取り組みが進んだわけではなかった。本章では、これまで直面した問題とそれに対して行った試みについて述べる。

### 3-1. 参加者の減少

現在、本学における多読時間は正規の科目としては行われていない。そのため、参加者をどのように呼び込むかが非常に難しい問題である。また多読開始当初は、3-6.でも触れたように、参加者が辞書を使わずに読むことのできる平易な文章で書かれた書籍が少なかったため、準備した書籍を全て読みつくしてしまい、その後、その参加者が来なくなる事例も見られた。そこで、どのようにして参加者の減少を止め、一人でも多くの参加者に、毎週行われる多読時間に来てもらえるかが大きな課題となった。

### 3-2. 対策とその結果

前節の問題を解決すべく、5つの対策を講じた。1つ目は、毎週新しい書籍を導入できるように、多読時間の前に書籍を調整することである。本学図書館の蔵書の中から、雑誌や小説等、参加者の関心を引きそうな書籍を探し、多読時間に活用していくことにした。2つ目は、読みたい本を全て読んでしま

った参加者に対し、図書室の蔵書で参加者のレベルに合わせた書籍を探すよう指導し、教師の助けが必要な際は書籍の検索を手伝うことである。3つ目は、参加者に広く浸透している SNS（ソーシャルネットワークサービス）を利用し、広報の強化を行ったことである。4つ目に、教師が一時帰国の際に書籍を購入することや、ベオグラード訪問者に書籍の購入を頼むことで、参加者のレベルにあった書籍の確保に努めた。最後に、在セルビア日本国大使館所有の書籍や雑誌、日本の伝統的な玩具を借り、一時的に多読時間に取り入れることにした。

その結果、一時2人にまで減少した参加者が、多読時間開始時の15人程度まで戻り、開始当初からの参加者に加え、新しい学生の参加も増加した。また、日本の伝統的な玩具に興味を持って来た参加者にも、読書を勧めると、食い入るように読み始め、本を手にとってもらう機会ができた。一時的にはあるが、日本の玩具を取り入れたことで、結果的に多読だけではなく、日本文化紹介や文化体験を交えた時間となり、多読時間の活性化にもつながった。

#### **4. おわりに —今後の展望—**

今後は多読のみで完結するのではなく、多読を通じた取り組みにも力を入れていくことが今後の課題の1点目である。例えば、以前から交流のあるベオグラード市内の小学生を対象に、参加者たちがこれまで読んだ本について紹介すること、そして日本語で、あるいはセルビア語に翻訳したものを小学生に読み聞かせることが挙げられる。また、定期的にかかせている多読ノートを発展させ、ブログや SNS に本のレビューや感想を書き込ませることも検討している。

2点目に、市内の語学専門高等学校や他大学に在籍している学習者に対する広報活動を実施し、ベオグラード市内の日本語学習者全体に多読の取り組みを広めることも今後の課題である。

以上2点を課題とし、実現に向けて取り組んでいきたい。また、多読による長期的な効果として期待される読解力の向上についても考えていきたい。多読を通じ、セルビアにおける日本語教育がますます活発になることを願っている。

- 謝辞 -

本学での多読時間については、NPO 法人日本語多読研究会の皆様の貴重なアドバイスをいただき、同研究会の川本かず子氏には本の寄贈もいただいた。また、多読時間を実施するにあたり、ベオグラード市立図書館スーパーバイザーのミルコ・マルコヴィッチ氏に場所の提供をいただいた。シルクロード雑学大学の皆様には、様々な分野にわたる多くの書籍をご寄贈いただき、多読の幅を広げてくださった。厚く御礼申し上げます。

### 参考文献

渕上真由美・和田沙江香（2009）「ベオグラード大学における日本語教育」『日本語教育連絡会議論文  
集』Vol. 21 日本語教育連絡会議編 103-110.

NPO 法人日本語多読研究会監修 『レベル別日本語多読ライブラリー にほんごよむよむ文庫』  
シリーズ 東京 アスク.

NPO 法人日本語多読研究会監修 （2010）『多読のすすめ 2010 年度版』 NPO 法人日本語多読研究会編  
未公刊.

NPO 法人日本語多読研究会ホームページ <http://www.nihongo-yomu.jp/> 最終閲覧 2011 年 11 月 30 日